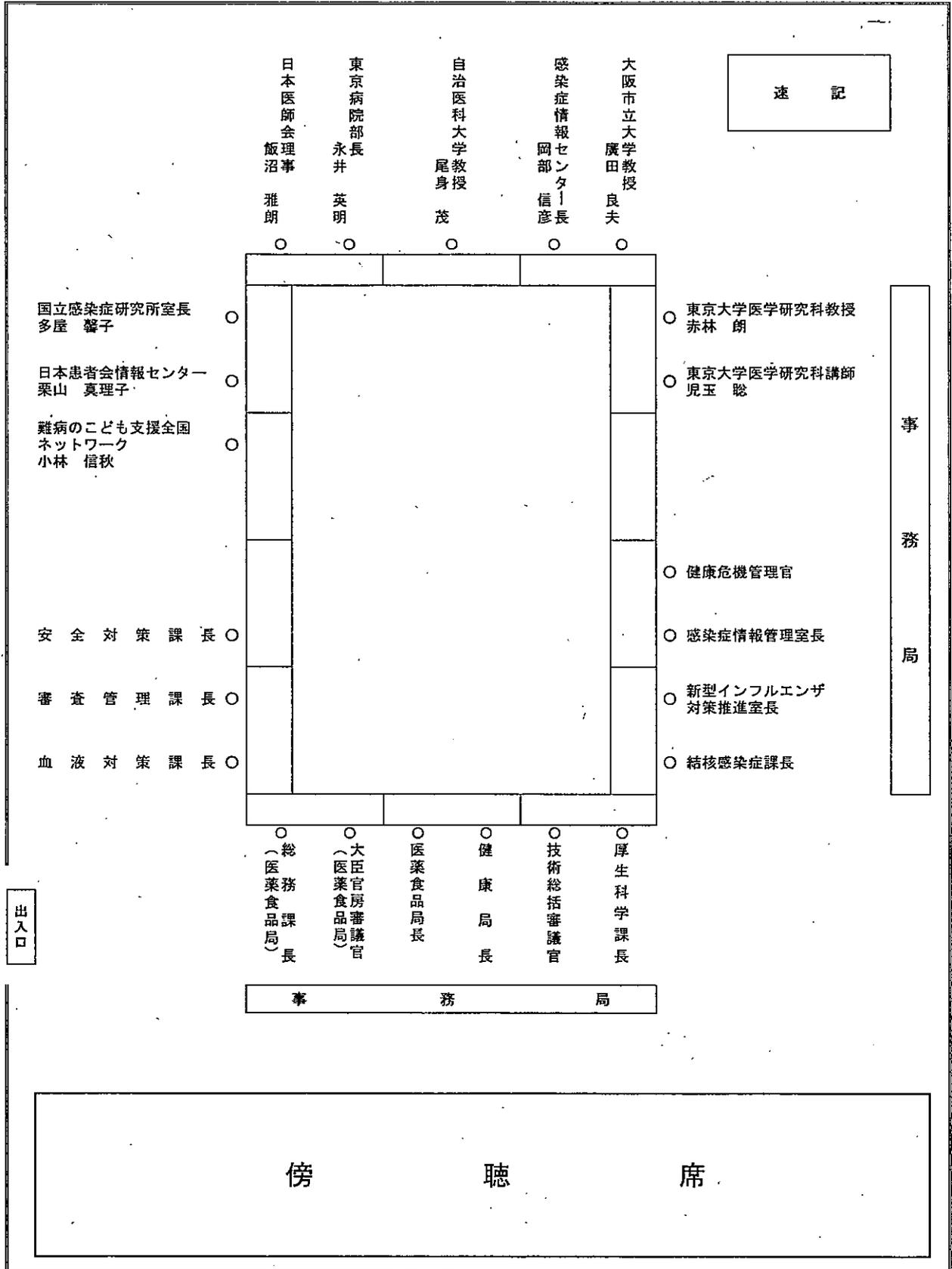


新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会 座席表

平成21年8月20日(木)
10:00~12:00
九段会館 鳳凰(2階)



新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会の概要

(H21年8月20日(木))

【接種対象者について】

- 今般の新型インフルエンザにおいては、鳥インフルエンザの場合と異なり強毒性でないため、ワクチンの接種目的は重症化予防、死亡数の減少になると解される。
- 重症化しやすい者、次に重症化する人を治療する医療に携わる者、その次に、重症化しやすい人たちの周りのひとたち（リスク保有者の家族等その者をケアする者）にも接種が必要ではないかと考える。
- 具体的には、医療従事者、妊婦、基礎疾患患者、小児が優先的な接種の対象となると思われる。
- 重症化予防が目的であれば、社会機能維持者や医療従事者全般は対象者となりにくいのではないかと考える。
- 感染者が多い健康な若年層への接種についても、考える必要があるのではないかと考える。
- 妊婦や小児に対しての接種についても検討すべきである。
- 希望者全員にワクチンが行き渡らない場合、ワクチン接種の優先順位について、当事者間において効率的でかつ公正なルールが求められる。
- 疾患によっては接種をうけられない方もいるので、そういう方が、プレッシャーを感じないような配慮もしていただきたい。

【ワクチンについて】

- 有効性や安全性について不確定な要素が多い中で判断が求められている。
- ワクチン接種には100%の安全性の担保、ゼロリスクは存在しないことを認識すべきである。
- 国民に十分な情報提供した後は、接種の決定は本人に任せるべきではないかと考える。政府はワクチンの不確定要素も含め周知する等可能な限りの努力をした上で、国民の自己決定に委ねることが現在取り得る最大の策である。
- 負担軽減のため、季節性インフルエンザワクチンと新型ワクチンを同時に接種することも検討していただきたい。
- 発展途上国に行き渡るのか憂慮される。
- 子どもに接種するかどうかを自己責任と言われても、その結果は親が一生背負うもの。その結果は国や国民全体で負うという考え方や制度が重要。

【輸入について】

- 輸入については①途上国への寄付、②安全性の追求、③感染の広がりや重篤度に応じた対応、を条件に決断すべき。

新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会

日 時：平成21年8月20日（木）10：00～12：00

場 所：九段会館（鳳凰の間）

出席者：東京大学児玉講師、東京大学：赤林教授、大阪市立大学：廣田教授、国立感染症研究所：岡部センター長、自治医科大学：尾身教授、東京病院：永井部長、日本医師会：飯沼常任理事、国立感染症研究所：多屋室長、日本患者情報センター：栗山代表、難病こども支援全国ネットワーク：小林理事

厚生労働省：健康局長、医薬食品局長、技術総括審議官、大臣官房審議官、厚生科学科長、健康危機管理官、結核感染症課長、新型インフルエンザ対策推進室長、感染症情報管理室長、安全対策課長、審査管理課長、血液対策課長

□新型インフルエンザ対策推進室長より、資料に基づき新型インフルエンザに関し、世界での流行状況、ウイルスの特性、ワクチンの有効性・安全性及び諸外国におけるワクチン接種対象者等につき説明。

□各意見聴取者より、インフルエンザワクチン接種に関して、席順に意見陳述

〈東京大学 児玉講師〉

（資料に基づいて説明）

新型インフルエンザ流行においては、ワクチンという資源はその希少性から獲得をめぐる競争などの問題が生じる。全員に行き渡らない場合、ワクチン接種の優先順位について、効率的でかつ公正なルールが求められる。

〈東京大学 赤林教授〉

（児玉講師の説明内容に引き続き、資料に基づいて説明）

効率的で公正な資源配分のルールの実現において、どのようなルールを採用するかは、ワクチン接種の目的を明確にすることが重要である。今般の新型インフルエンザにおいては、鳥インフルエンザの場合と異なり強毒性でないため、その接種目的は重症化予防、死亡数の減少になると解される。

〈大阪市立大学 廣田教授〉

新型インフルエンザ対策は季節性インフルエンザ対策の礎となるべきである。特に乳幼児の接種量（接種量が欧米に比べ少なく設定されていること）について、季節性のときには十分検証されていなかった経緯があるが、新型の対策が間近に迫っているいま、そのことについて今一度議論すべきではないか。

〈東京病院 永井部長〉

医療従事者については優先的に接種すべきと思われる。また、若年層への感染、入院事例も多いことから、健康な若年層への接種も考える必要があるのではないかと。妊婦や小児に対しての接

種も検討すべきである。若年者の集団接種を中止したことで、高齢者の死亡数が増加した研究結果もある。

〈日本医師会 飯沼常任理事〉

新型インフルエンザが本格的な流行期に入ったことも示唆される状況であるため、可能な限り早い段階でのワクチン供給が望まれる。また、季節性インフルエンザの流行も忘れてはならない。人によっては新型で2回、季節性で2回の計4回接種となり、負担も軽くないところ。負担軽減のため同時接種を検討していただきたい。

〈国立感染症研究所 多屋室長〉

現在、日本の中で重症化しているのは基礎疾患を有する者と小児である。それらを考えると最前線の医療従事者、妊婦、基礎疾患患者、小児が優先対象となると思われる。だが、現在の高齢者以外の季節性インフルエンザが行われている「任意接種」の枠組みの中で、優先順位をつけて接種することが、円滑に行えるかどうか疑問。同時接種については、医師が特に必要と認めた場合は実施可能とされているが、現在ほとんど実施されていない。同時接種を取り入れないと、被接種者と医療従事者の負担が大きい。

〈日本患者会情報センター 栗山代表〉

ワクチン接種について、基礎疾患を有する者を最優先にすべきと、当事者達の多くは主張してはいない。疾患によっては接種をうけられない方もいるので、そういう方が、プレッシャーを感じないような配慮もしていただきたい。一方で、必ずしも禁忌でない人が、ワクチン接種を受けられない場合もあるようなので、そのようなことがないよう配慮いただきたい。

〈難病のこども支援全国ネットワーク 小林理事〉

家族にウイルス性疾患により重度の障害を負った者を抱えた立場から、今般のワクチンの有効性について非常に注目している。重い障害のある子ども達を優先接種の対象としていただきたい。これまでの経緯では、基礎疾患のある場合、重症化リスクが高いとされていることから、これらの子ども達は対象とすべき。また、この子ども達を介護する家族、訪問看護などや学校や保育所など、教育機関等、子ども達と直接接する人たちもその対象とすべき。ただ、これらの子ども達は様々な治療を受けており、たとえばステロイドなど免疫抑制療法がおこなわれているケースや、逆に免疫賦活剤などの治療がおこなわれていることもあるので、ケース・バイ・ケースできめ細やかな対応と情報提供が必要。

□自由討論（敬称略）

児玉：接種目的をどう考えるかで自ずと対象者は決まるものと思われる。感染拡大防止を目的として入れるかがポイントではないか。WHOや米国CDCは感染拡大防止を目的の一つとしているが、ドイツの対象者を見ると感染拡大防止よりも重症化防止を主眼に考えていると思われる。

赤林：接種の目的が決まらなると対象者は絞れない。重症化予防・死亡例減少なのか、又は感染者の減少なのか。重症化予防が目的であれば、社会機能維持者や医療従事者全般は対象者となりにくい。

尾身：接種の目的を明確にすべきという意見があったが、私は重症者・死亡者を可能な限り減らすことを主眼とすべきと考える。そのためにはまず重症化しやすい者、次に重症化する人を治療する医療に携わる者、その次に、重症化しやすい人たちの周りのひとたち（リスク保有者の家族等その者をケアする者）にも接種が必要ではないかと考える。

新型インフルエンザについては、ワクチン供給量に限りがあり、そこに競争が生じてしまう。また、有効性や安全性について不確定な要素が多い中で判断が求められている。

岡部：国によってワクチン接種に対するスタンスが異なる。現在アメリカでは季節性のワクチンを小児・妊婦も含め推奨しているが、日本では高齢者のみである。欧米の接種対象者について、参考にするのはいいが、日本とは背景が異なることに留意が必要。

また、ワクチン接種には100%の安全性の担保、ゼロリスクは存在しないことを認識すべきである。

赤林：目的は死亡者数を減らすことである、ということ早く明確にすべき。国民に十分な情報提供した後は、接種の決定は本人に任せるべきではないか。誰に対して輸入ワクチンを接種するかについても、同様に、個人で選択できるようにすればよいのではないか。そのために、政府はワクチンの不確定要素も含め周知する等可能な限りの努力をした上で、国民の自己決定に委ねることが現在取り得る最大の策である。

上田：政府としては6月の段階で重症化防止が今回の対策の柱であることを打ち出している。感染防止について期待はするが、その効果を明確には言えないところがある。今回は感染防止ではなく、個人の重症化予防を目的とするため、強制接種ではなく任意の接種となるのではないか。政府としてはエビデンスを可能な限り収集し、接種による副反応をできるだけ避けなければならない。

尾身：輸入ワクチンについて、どのようなご意見をお持ちか聞きたい。

小林：輸入と国産どちらがいいかはっきりいって分からない。ワクチンとして違うものであれば十分に説明してほしい。冒頭の説明でアジュバントというようなものがあると初めて聞いた。

栗山：ワクチンについて、日本だけではないと思うが、大量に買い付けてしまうと、発展途上国に行き渡るのか憂慮される。アジュバントという添加物の存在は私たちには分からない。きちんと情報提供してほしい。子どもに接種するかどうかを自己責任と言われても、その結果は親が一生背負うもの。その結果は国や国民が背負う国であって欲しい。個人に判断を求めるのは重いことであると理解してほしい。

廣田：現段階でワクチン接種は十分なエビデンスがないが、その中でも思い切った決断が必要と思われる。その際には、誤った報告に基づかないようにすることが重要。若年者の集団接種を

中止した結果、高齢者の死亡が増加したとする研究結果については、別の見方もある。

永井：若年層の集団接種については、社会の感染拡大防止という効果について明確なエビデンスがなくとも、現在、感染者が多い若年層の感染・入院を抑えることで、医療機関のパンクを防ぐ効果が期待できるのではないかと考える。

尾身：輸入については①途上国への寄付、②安全性の追求、③感染の広がりや重篤度に応じた対応、を条件に決断すべき。